

単元や題材など内容や時間まとめを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(例)

【学 年】 小学校第6学年（現行学習指導要領では中学校第1学年）

【単元名】 データの活用 【小単元名】 夏休みの読書が多いのはどちら？（7時間扱い）

【育成する資質・能力】

【知識及び技能】	【思考力, 判断力, 表現力等】
D (1) ア (ア) 代表値の意味や求め方を理解すること。 (イ) 度数分布表を表す表やグラフの特徴びそれらの用い方を理解すること。 (ウ) 目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知ること。	D (1) イ (ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について、批判的に考察すること。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：目的に応じて、棒・折れ線・円・帯グラフを選び活用したり、度数分布表に表したり、資料の平均や散らばりを調べるなどの活動を通して、統計的に考察したり表現したりしてきている。平均する方法について考察し、それを日常生活に生かす学習をしている。

働かせる見方・考え方：データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断すること。

段階	学習活動（時間）	留意点
導入	1 調べるための計画を立てる（1）	<p>単元の問いを捉える場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・級友が読んだ本の冊数を調べる、表にまとめる、合計、平均で調べる等、調査方法をあげるようにする。 ・本当のデータを事前に教師が調べておき、結果が明らかかな場合には調べるクラスを変えたり、データを変えたりして、一覧を作成しておくなどの工夫をしておく。
夏休みの読書量が多いのはどちらのクラスか調べよう		
知識題・解決能を通過して	2 表にまとめ、およその結果を見いだす。（1）	<p>バラバラの一覧から表にまとめる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順に並べたり、読んだ冊数を区切って並べ替えたりして見やすい表にまとめ、気付くことをまとめる。 ・合計冊数で調べた場合、クラスの数人が違うことに着目するように声をかけ、平均値で調べるようにする。
	3 再度結果を検討する（1）	<p>データから傾向を捉える場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読んだ冊数が極端に多い人や極端に少ない人に着目し、読んだ冊数を可視化するためにドットプロットで表す。 ・多く読んでいる人と少ない人によって平均値が高くなったり、低くなったりすることを理解できるようにする。 ・いくつかずつデータをまとめて度数分布表や柱状グラフに表す（階級）。 ・気付いたことを発表する。
	4 柱状グラフに表し、平均値の意味を考える（1）	
	5 最頻値、中央値を知る（2）	<p>知識・技能を習得する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柱状グラフの長い部分に着目している発言から最頻値を、真ん中あたりのずれに着目している発言から中央値をそれぞれ指導する。
学びを振り返る	6 批判的に考察する（1）	<p>データを基に考えを述べ合い、追究を振り返る場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各データを基に再度どちらのクラスの読書量が多いのかを互い伝え合う。 ・追究を振り返り、本のジャンルや市の図書館で借りた人はどうするかなどデータの収集過程や収集したデータの妥当性について検討し合うようにする。

次単元へのつながり：中学1年（目的に応じた適切で能率的なデータの集め方、合理的な処理の仕方等）